

こども達から学ぶサポーター養成講座の在り方～講座と事業所訪問の交流を通して～

福島県認知症介護指導者 橋本好博

キーワード: 小学生 グループホーム 時間の共有

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

認知症の理解を地域の人に知ってもらう機会を作る。その中で子供達への認知症の理解を深めていく事

【活動内容】

グループホーム近くの小学校 6年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。その期間は、平成20年を第一回目に、令和元年まで継続している(今年は新型コロナの影響があり講座のみ)それは、ただサポーター養成講座の講義をするだけではなく、講座後グループホームへ子供達が3回程度授業の一環として訪問することを12年間続けてきた。今は子供達へのサポーター養成講座は当たり前のように広がってきたが、一般的には講座のみの場合が多く、講座と訪問をセットで行うことを学校と共同しながら続けることが出来た。

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

平成18年に指導者養成研修を修了し、グループホームの管理者として地域での活動を本気で考えてきた時に、キャラバンメイトを受講し、サポーター養成講座の開催に携わる事が多くなってきた。平成19年秋に小学校との交流するきっかけがあり、翌年からサポーター養成講座を開催した。

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成19年秋、小学校2年生が町探検という授業があり、そこに当事業所も対象となり子供達が訪問してきた。その時先生と何気ない雑談で、学校でもこのような交流を持つ機会を多くしていきたいのだが、学校のスケジュールが忙しくて外に目を向ける時間がないという事だった。

そこで、サポーター養成講座というものがあ、認知症の勉強を通じて子供達への学びの機会を協力できればという事を提案し、サポーター養成講座を行えるチャンスを学校側から頂くことが出来た。



【活動の成果】

参加した児童からは「同じことを何度も聞いてきてちょっとふしぎなかんじだったけど、笑ったり話したりよこんでくれたりということは変わらないから「おかしいよね」などの言葉をいったりするのはよくないことだと思った」「人はみな平等であり、どんな病気にかかろうと、だれもが同じように生活する権利があるんだという事を学びました」という声が聞かれた。サポーター養成講座の内容を認知症の方との交流を重ねることで、認知症は普通の人と変わらないと感じてくれる時間を作れた。



今後の展望

共生は、頭の理解ではなく、時間の共有が大切だということを私自身も学んだ。地域の子供達が安心して暮らせる街を作ることが、認知症の人が安心して暮らす地域につながると思うので、今後も続けていきたい。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。